

全体講評

4 問から二つ選んで解答する形式です。いつものことですが、問題の難易度レベルにかなり大きな違いがあり、問題選択が非常に重要です。自分に合わない問題は全くできないので問題の選択により点数結果が大きく左右されます。例えば、今回選択する人が多かった問 2 は満点という人がかなり出ています。

問 1「製造業の生産管理システム化構想立案に関する問題」は、生産管理に関する一般的な知識を必要とするので、比較的難しい内容となっています。

問 2「情報サービス業の業務改革のための情報システム刷新に関する問題」は Web マーケティングについての問題で、とっつきやすい内容です。設問文をよく読んでヒントの文章を探せば比較的簡単に解答が書ける問題です。高得点が多かった問題です。

問 3「クリーニング店のマーケティング戦略についての問題」は、店頭と工場の情報交換に関する出題です。内容的には出題者の意図を汲み取るのが難しかったのか低得点者が多く見受けられます。

問 4「ブロードバンドルータの製品開発に関する問題」は、製造業者の価格設定、販売促進策、生産体制と幅広い内容についての設問です。専門的な知識が必要な問題でもあり、比較的難しい問題となっています。

以上のように、問題の難易度レベルにかなり大きな違いがあり、問題選択が非常に重要です。自分の得意な分野かどうかの見極めと同時に、設問について読解力が必要です。設問の意味をよく理解しないでいきなり解答を書き始めると見当違いの解答になります。

設問をよく読んで「何を答えとして要求されているか」を理解することが重要です。設問を読みながら、解答すべきポイントに下線を引くなどして明確にすることをおすすめします。出題者の意図に合わない解答は、たとえ現実的に正しくとも不正解になることが多いので、十分注意してください。

例えば、問 3 設問 1、3 は「利点」を書きなさいというのに、利点ではなく機能を書いている解答があります。不正解になります。

問 1 製造業の生産管理システム化構想立案に関する問題**【解説】**

製造業 P 社の生産管理システムを取り上げ、その計画立案と在庫管理についての設問です。設問 1 は[在

庫管理を正確に行うための入力機能] を考えます。設問 2 は製造作業の合理化の設問です。設問 3 は、材料比率を下げるためのシステムの設問です。いかに効率的にサイズを組み合わせるかという観点で考えればよい問題です。ここではシステム化というより、業務効率化の観点が必要です。設問 4 は部品表の保守をする時の問題であり、ここは一転して製造業一般の機能を考える必要があります。高得点の出にくい問題です。

[設問 1] [講評]

設問で材料の在庫管理を正確に行うために「新システムの概要で述べられていない入力機能」とあります。「新システムの概要」で在庫管理機能は述べられていませんが、文中「材料ロス」に関する記述がヒントとして書かれているので、上記のような材料ロスの入力についての解答を基本とします。

なお、「日常の払い出し入力」とする人が多かったのですが、これは不正解とします。原価管理のところに「工程ごとの完了入力時に、部品表にしたがって理論上の使用材料を引き落とすことにより計上する。」という記述があるので、理論在庫で引き落とすシステムになっていることが推測できます。また、棚卸入力は現在も行われているので、これを新システムで考慮していないことは考えにくいと思われます。いずれも不正解です。

模範解答以外に、材料入荷時のバーコード入力機能などは効率化の問題であって、在庫の正確化の問題ではありませんが、間違いにする根拠があまりないので、このような解答も正解とします。

[設問 2] [講評]

作業の合理化をするために、計画の立案方法を変更する二つの方策を述べます。設問を読むと「どのような集計を行って」「それに基づいてどのような改善を行うか」を考えます。字数が 50 字であることを考慮すれば、集計と改善をセットにして答えると判断できます。この 2 点がない解答（例えば、集計についてのみ書かれた解答）は不正解です。

計画の立案に使われる計算を文中で探すと、「小口の注文が大量にあり手作業でそれらの仕事を集約するのは無理であると…」の部分があり、ここから模範解答の「製品別に集計し生産指示を行う」が導き出

されます。

次いで「各課の人員構成は固定的であり…」という文章から、改善策として「柔軟な要員配置ができるようにする」という模範解答が出てきます。

[設問3] [講評]

文中の(2)製造部門のところで「材料の切り出しを個人の判断に任せているのでうまく利用しきれずに捨てる部分が多くなって…」と問題が指摘されていますので、ここは迷わず「材料のサイズの組合せ」を取り上げる必要があります。

なお、余った端材から小さな部品を切り出すという解答もありましたが、設問の趣旨からみて不正解です。

[設問4] [講評]

「P社のような特注品を受注する製造業」についての設問では、P社について考えるのか、一般の特注品製造業を考えるのか、どちらにも受け止められますが、ここでは、P社のように「部品表を持っている一般の製造業」ということで、P社の部品表は定番品の部品表をもとにしているのが、模範解答のように「定番品の部品表に基づく…」という点がポイントです。

なお、特注品の過去の記録をもとに予測するという答えは、特注品の意味がないので不正解です。

なお、原価計算や価格表は無関係です。

■ 問2 情報サービス業の業務改革のための情報システム刷新に関する問題

【解説】

情報サービス業の内部システムについて、経営管理や案件管理などの業務改革を行う問題で、特に統合パッケージをSaaS形式で行う場合の注意点などに関して知識を問われています。SaaS形式は最近話題になっており、比較的解きやすくやさしい設問です。多くの人がこの問題を選択しています。

[設問1] [講評]

文中に「経営判断のために必要な案件ごとの損益状況がタイムリーに把握できないことに不満がある」ことから、解答が容易に導かれます。

キーワードとして「損益状況」が書かれていれば正解です。単に「各種実績情報」としか書かれていないのは不正解にしました。やさしい設問でありほぼ全員が正解です。

[設問2] [講評]

SaaS形式を採用する際の利点を問われています。

最近のトピックとして話題になっているので、一般的な知識として勉強している人が多いのですぐに書ける内容です。

総務部門はシステムの運用・保守(維持管理)を担当しているため、その手間や工数が削減できる点についての利点を書きます。また、最も恩恵を受ける事業部として、第3事業部の問題点が記述されているので、この点について解答が書けます。キーワードは「客先」の常駐従業員です。この用語がない解答は不正解にします。

[設問3] [講評]

統合業務ソフトパッケージについての各部の利点を書きます。データ連携による利点ですので注意して記述してください。

総務部門については、本文の(1)総務部門のところに、各事業部については(2)事業部門に、現状の問題点が記述されているので、この解消が利点となるでしょう。

問題文をよく読めば、ヒントになる用語がありますが、あちこちにばらばらに記述されているので解答もバラけています。(1)総務部では、会計事務所とのデータ交換、案件管理のデータ、見積書・請求書の入力などの作業が簡単になることで一つの解答になります。これらを別々に記述しても解答は一つとしました。「経営情報の集計業務が簡単になったこと」も解答として外せません。

(2)事業部では、勤怠管理と案件に費やした時間の入力が集約(一画面でできる)されること、および常に最新の案件情報を把握することです。

なお、「3人の経理担当が同時に処理できること」や「ケータイの利用」はデータ連携には結びつきません。

問題3 クリーニング店のマーケティング戦略についての問題

【解説】

店頭での受付業務と工場の作業との連携を改善するテーマです。マーケティングというより、業務改善のテーマです。

設問1,3は、「利点」を書くように要望されています。単に「...ができる」というのではなく、その結果「ミスが減少する」「効率が良くなる」などの利点が書かれていないと、半分だけの正解になります。

よく設問を読んで、出題者の要求している解答表現で書かないと減点されるので注意が必要です。

[設問1] [講評]

POS レジと工場のシステムを連動することによる利点を書きます。「工場での転記が不要になるため、業務が効率化する」という解答が多かったのも正解にします。また、「工場の作業状況が分かるので問合せ対応ができる」という解答も正解です。

なお、「クレーム対応ができる」と「問合せ対応ができる」と二つ書いてある場合は、合わせて一つの正解として採点しました。「POS レジのおかげで店頭での顧客の待ち時間が短縮する」、「販促、DM などの顧客サービス」は、工場とのデータ連携に関係ないので不正解です。

[設問2] [講評]

文中に書かれている文章から、そのまま素直に解答が導き出されます。衣料品の保管サービスでは、模範解答以外に、「保管期限の管理」、「出庫時期の指示機能」があればよいでしょう。

高級衣料サービスでは、それぞれに合わせた作業指示が必要です。単に「情報蓄積」や「データベース作り」だけでは不正解です。特急サービスについては、作業計画の変更に関する記述があれば、正解とします。

なお、ここでは IC タグは関係ありません。

[設問3] [講評]

IC タグを使用する利点を紙のタグの使用と比較して書きます。この設問を考える時、一般論で答えてはだめなので文中から現状の問題点を見つけます。業務の概要の中に(3)、(4)で「遅れの情報が無いため問合せ対応ができない問題」、「店舗への仕分け配送のミスの問題」とが書かれていますので、これを解消することが「利点」になります。

なお、は「どの工程が完了したかがわかるので問合せに対応できる」も正解にします。

紙のタグとの比較ですから、作業的な観点で解答が考えられます。商圏分析などの戦略などは作業レベルではありません。

問4 ブロードバンドルータの製品開発に関する問題

【解説】

PC周辺機器メーカーがブロードバンドルータの開発をするための設計についての問題です。設問1は機能要件について、設問2は性能要件についての問題です。機能としては使用性を中心にし、性能としては定量的な数字を述べるとよいでしょう。問3は設計

方式の違いについての設問です。いずれも問題文をよく読めば、ヒントになる用語がありますので、解答には迷わないものと思われます。かなり専門的な知識が必要な問題であり全体として選択する人は少ない状況です。高得点は少ない状況でした。

[設問1] [講評]

模範解答のような解答は少なく、ほとんどの方が「設定変更をしなくても接続するだけでB社のサービスが利用できるようにした」とありますので、これを正解にします。

開発構想概要を読めば、B社からの開発要請が書かれていますので、これを参考にします。ポイントなのは、「従来の市販品と比べて異なる製品機能」を書くことです。IP電話や無線LANではありません。

[設問2] [講評]

B社のサービス概要に「新サービスでは最大1Gビット/秒を売り物にする」とあります。ここで性能要件として求められているのは、やはり数字による定量的な表現が必要であり、「最高1Gビットの転送速度」という要件が正解です。また理由として「B社のサービスの売りものにしている」という解答になるでしょう。

新サービスですから「低コストで設定が簡単」は不正解です。

[設問3] [講評]

(1) インタフェースカードの挿入方式から、無線LAN内蔵の機能に変えたことの利点として、製造者は「コストが低くできること」を、利用者は、「カードがなくともWebで設定後直ちに無線LANが利用開始できるから」という解答がよいでしょう。

(2) 無線LANの通信速度を54Mビットまでのものに対応できるようにした理由は、「性能をあげるとコストアップするから」または「低価格で提供したいから」。および「無線LANは別に(オプションなどで)用意することが可能だから」という解答がよいでしょう。

以上